

その他 (資料)

地域の保健室に関する文献的検討

鈴木 達也, 寺裏 寛之, 間辺 利江, 小谷 和彦

自治医科大学 地域医療学センター 地域医療学部門 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1

要 約

我が国において地域を基盤とするケアの構築が重要視される中で、地域の保健室、すなわち、「まちの保健室」や「暮らしの保健室」と呼ばれるような活動が見られるようになってきた。両保健室について、特に開催の状況あるいは活動対象や役割について、文献をもとに検討した。暮らしの保健室は、まちの保健室と比べて開催頻度が高かった。活動対象と役割に関連するキーワードの出現回数を各保健室で比較したところ、まちの保健室では、暮らしの保健室と比べて、「健康」、「仲間」、「住民」が多く見られた。暮らしの保健室では、「療養」、「近所」、「医師」、「ケアマネジャー(以下、ケアマネジメントを含む)」が多く見られた。「相談」、「予防」、「地域」、「家族」、「ボランティア」、「看護師」は、両保健室に共通して多く見られた。これらの結果は、各保健室の成り立ちや主眼を反映していると推定された。異なった特徴はある一方で、両保健室は地域を基盤とするケアの一翼を担う機能における共通点も少なからず有しており、今後の進展が期待される。

(キーワード: まちの保健室, 暮らしの保健室, 健康, 地域住民, 多職種連携, 地域基盤型ケア)

緒言

わが国では、人口減少を伴う少子高齢化によって、地域の医療や介護のサービスを提供する仕組みの改変が求められている。地域の生活を保全するための地域を基盤とするケアの構築が大切になってきている¹⁾。この構築には互助や共助の要素が不可欠である。例えば、自治会、住民組織、NPO (nonprofit organization) によって、福祉機能を伴う見守りカフェや介護予防のための高齢者サロンといった活動が既になされている¹⁾。一方で、こうした要素の担い手の拡充あるいは創出は未だ必要な状況にある。このためには、地域でどのような組織によってサービスが提供されているのかを明らかにすることは意義深いと思われる。

このような背景の中、最近、「まちの保健室」²⁾あるいは「暮らしの保健室」³⁾と称する「地域の保健室」の活動が見られるようになった。まちの保健室は、日本看護協会の地域への看護提供事業(2000年)として始まった²⁾。はじめはボランティアの看護師によって取り組まれてきたが、最近では看護学部を持つ大学や医療機関に所属する看護師グループが運営する取り組みも見られるようになった。一方で、暮らしの保健室は、イギリスのマギーズセンターにならって訪問看護を提供する会社を母体として開設された(2011年)³⁾。この取り組みは、訪問看護ステーションや在宅療養支援診療所と連動して徐々に拡大している³⁾。いずれの保健室にも明確な定義はなく、地域の健康や生活に関

わる相談の拠点として、多様な相談事案を扱い、運営母体も多岐に渡ることから両者はしばしば混同されることがある。両保健室の特徴を検討することは、地域を基盤とするケアとして同保健室の位置づけを考える上での参考になると思われる。本稿では、まちの保健室と暮らしの保健室との共通点や相違点について、文献的に検討したので報告する。

対象と方法

「まちの保健室」と「暮らしの保健室」をキーワードとした検索を、医学中央雑誌を用いて行った(検索式: “まちの保健室” /AL or “暮らしの保健室” /AL)。2019年8月31日時点で検索された文献のうちで会議録または本文へのリンクがない場合を除外して、原著(特集用原著を含む)/解説論文(特定の保健室の内容を紹介している論文)を対象とした。検索の上で241件がヒットし、まちの保健室に関する48文献と暮らしの保健室に関する10文献が採択された(図1)。なお、参考のために原著として対象とした文献を一覧化した(附表)。

開催の状況

対象文献をもとに、開催地(自治体レベル)と開催頻度についての記載を確認して記録した。なお、直接の記載がない場合であっても、他の文献からその保健室の開催に関

する情報が得られる際にはそれを採用することとした。

キーワードの出現回数

検討文献において、各保健室の活動対象や役割^{2,3)}に関連するキーワードの出現回数を記録した。このキーワード

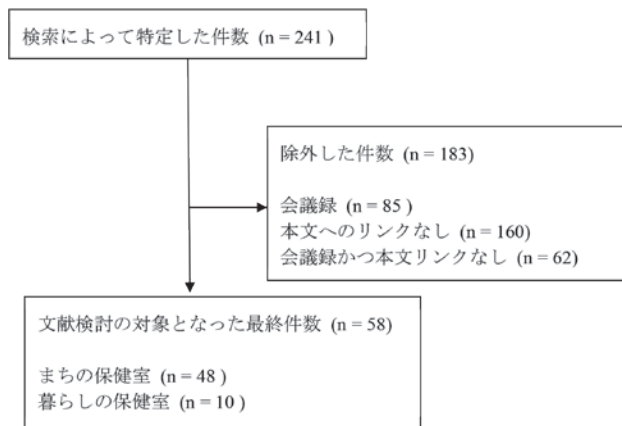


図1 文献の検索フロー

の抽出は、Adobe Acrobat Pro DC (Windows, アドビシステムズ株式会社, 東京) の検索機能を用いて実施した。

統計学的解析

開催頻度やキーワードの出現回数については、両保健室間で検定して比較した。分析にはt検定を用い、有意水準を5%とした。

結果

開催の状況 (表1)

まちの保健室と暮らしの保健室の開催頻度 (平均±標準偏差) は、それぞれ、1.71±2.14回/週、3.95±1.71回/週であった。暮らしの保健室の開催のほうが有意に高頻度であった (p=0.004)。

本研究で対象とした文献では、各保健室の開催地には若干の特異性が窺われた。まちの保健室については兵庫県における報告が20件と最も多かった。暮らしの保健室については、東京都における報告が7件と最も多かった。

表1 各保健室の属性

種類	市町村	運営	開設時期	開催頻度
まち ⁴⁾	土浦市	病院	2002年	月1回
まち ⁵⁾	茂原市	看護協会	2002年	週3日
まち ⁶⁾	小千谷市	病院	2001年	年5回
まち ⁷⁾	魚津市	看護協会	2001年	月1回
まち ⁸⁾	金沢市	老人保健施設	2002年	週5日
まち ⁹⁾	山梨県	看護協会	2001年	不明
まち ¹⁰⁾	三重県	不明	不明	不明
まち ¹¹⁾	名張市	自治体	2005年	平日
まち ¹²⁾	名張市	自治体	2005年	平日
まち ¹³⁾	茨木市	病院・大学	2003年	週6日
まち ¹⁴⁾	茨木市	病院・大学	2003年	週6日
まち ¹⁵⁾	兵庫県	看護協会	2001年	月1回
まち ¹⁶⁾	兵庫県	看護協会	2001年	月1回
まち ¹⁷⁾	兵庫県	大学	2001年	月1回
まち ¹⁸⁾	兵庫県	大学	2001年	月1回
まち ¹⁹⁾	兵庫県	看護協会	2001年	月1回
まち ²⁰⁾	兵庫県	大学	2001年	月1回
まち ²¹⁾	兵庫県	看護協会	2001年	月1回
まち ²²⁾	兵庫県	看護協会	2001年	月1回
まち ²³⁾	兵庫県	看護協会	2001年	月1回
まち ²⁾	兵庫県	看護協会	2001年	月1回
まち ²⁴⁾	兵庫県	看護協会	2001年	月1回
まち ²⁵⁾	神戸市	大学	2005年	年9回
まち ²⁶⁾	神戸市	大学	2005年	年9回
まち ²⁷⁾	尼崎市	大学	不明	週1回
まち ²⁸⁾	尼崎市	大学	不明	週1回
まち ²⁹⁾	明石市	不明	2012年	月2回程度
まち ³⁰⁾	明石市	大学	2012年	不明
まち ³¹⁾	明石市	大学	2012年	月1回
まち ³²⁾	明石市	大学	2012年	月2回程度
まち ³³⁾	明石市	大学	2012年	月1回
まち ³⁴⁾	倉吉市	大学	2015年	年間70回 (以上)
まち ³⁵⁾	倉吉市	大学	2015年	拠点で月1回 (準拠点では3か月に1回, イベント・出前では不定期)
まち ³⁶⁾	倉吉市	大学	2015年	年間70回 (以上)
まち ³⁷⁾	倉吉市	大学	2015年	年間70回 (以上)
まち ³⁸⁾	倉吉市	大学	2015年	年間70回 (以上)
まち ³⁹⁾	倉吉市	大学	2015年	拠点で月1回 (準拠点では3か月に1回, イベント・出前では不定期)
まち ⁴⁰⁾	倉吉市	大学	2015年	拠点で月1回 (準拠点では3か月に1回, イベント・出前では不定期)
まち ⁴¹⁾	倉吉市	大学	2015年	拠点で月1回 (準拠点では3か月に1回, イベント・出前では不定期)
まち ⁴²⁾	出雲市	看護協会	2003年	年18回
まち ⁴³⁾	出雲市	看護協会	2003年	年20回程度
まち ⁴⁴⁾	岡山市	看護協会	2001年	週2日
まち ⁴⁵⁾	山口市	NPO	2003年	週6日
まち ⁴⁶⁾	徳島市	大学	2004年	毎日
まち ⁴⁷⁾	徳島市	大学	2004年	毎日
まち ⁴⁸⁾	不明	不明	不明	不明
まち ⁴⁹⁾	不明	不明	不明	不明
まち ⁵⁰⁾	不明	不明	不明	不明
暮らし ⁵¹⁾	秋田市	大学	2016年	週3日
暮らし ⁵²⁾	新宿区	訪問看護ステーション	2011年	平日
暮らし ⁵³⁾	新宿区	訪問看護ステーション	2011年	平日
暮らし ⁵⁴⁾	新宿区	訪問看護ステーション	2011年	平日
暮らし ⁵⁵⁾	新宿区	訪問看護ステーション	2011年	平日
暮らし ⁵⁶⁾	新宿区	訪問看護ステーション	2011年	平日
暮らし ⁵⁷⁾	新宿区	訪問看護ステーション	2011年	平日
暮らし ⁵⁸⁾	新宿区	訪問看護ステーション	2011年	平日
暮らし ⁵⁹⁾	高山市	訪問看護ステーション	2011年	週1日
暮らし ⁶⁰⁾	北九州市	ボランティア団体	2016年	月2回 (第2土日曜)

まち：まちの保健室、暮らし：暮らしの保健室

表2 各保健室の活動対象や役割に関連するキーワードの出現回数

キーワード	まちの保健室, 平均 (標準偏差)	暮らしの保健室, 平均 (標準偏差)
健康	41.88 (43.01)	3.30 (4.75)*
相談	27.35 (34.57)	13.80 (9.54)
生活習慣	6.23 (14.02)	0.10 (0.30)
予防	3.96 (6.08)	5.30 (7.38)
療養	0.48 (1.14)	2.10 (3.51)*
教育	3.31 (5.33)	1.20 (1.60)
地域	27.33 (26.08)	24.70 (20.42)
居場所	0.21 (0.50)	0.50 (1.50)
交流	1.81 (3.03)	0.20 (0.40)
仲間	0.21 (0.45)	0.80 (1.17)*
協働	2.08 (6.26)	0.90 (2.39)
近所	0.08 (0.45)	1.20 (1.60)*
家族	4.13 (10.91)	8.60 (9.26)
住民	12.48 (12.05)	4.40 (5.18)*
ボランティア	5.40 (9.99)	3.30 (3.03)
医師	0.90 (2.22)	3.10 (3.08)*
看護師	5.94 (9.92)	4.30 (3.16)
保健師	2.13 (3.73)	1.10 (1.14)
薬剤師	0.13 (0.39)	0.30 (0.46)
栄養士	0.23 (0.59)	0.60 (1.28)
介護福祉士	0.06 (0.32)	0.00 (0)
ケアマネジャー	0.38 (0.93)	1.80 (1.54)*

* p < 0.05

キーワードの出現回数

表2に、各保健室の活動対象や役割に関連するキーワードの出現回数を示した。まちの保健室が暮らしの保健室と比べて多かったのは、「健康」、「住民」であった。有意ではなかったが、「生活習慣」(p = 0.180)と「教育」(p = 0.227)は比較的多くみられた。他方で、暮らしの保健室のほうで、まちの保健室よりも多かったのは、「療養」、「近所」、「医師」、「ケアマネジャー」であった。各保健室に共通して(すなわち有意差はなく)、出現頻度が多かったのは、「相談」、「予防」、「地域」、「家族」、「ボランティア」、「看護師」であった。

考察

今回、異なる経緯で発展してきた、地域を基盤とする2つの保健活動について文献的検討を行い、今後の協働や連携を模索する上で、課題、ニーズの共通点あるいは異なる点を明らかにした。

開催の状況、活動対象、役割に着目し、まちの保健室と暮らしの保健室とを比較した。開催の状況は、両保健室の成り立ち(発展の経緯)や主眼の差異で説明できると思われる。すなわち、まちの保健室は、医療機関に勤務している看護師が公共委託あるいはボランティアで、健康に関する看護相談の場として提供されていた²⁾。昨今では、看護系の大学の地域貢献や実習の場にもなっていた²⁾。まちの保健室の開催頻度は、多様な運営形態の影響もあり、毎日から年に5回程度と幅を認めたが、月に1, 2回程度の開

催が一般的であった。暮らしの保健室は、民営の訪問看護ステーションあるいは在宅療養支援診療所が母体となった取り組みが多く、在宅医療、介護を含めた生活面の相談と調整窓口として日常的に活動していた³⁾。実際に、予約なしで日頃から気軽に相談できる拠点としての意義を謳う暮らしの保健室もみられた⁵⁸⁾。

このような開催の状況は、各保健室が内包する課題と関係することもここで付記しておきたい。まちの保健室にはボランティアな面があることから、活動に関する従事者の不足やモチベーションの維持という課題が生じる²⁴⁾。看護系大学の授業や研究(住民のニーズ調査、相談技術の向上)の機会として、その課題を克服するための工夫が報告されている^{18), 31)}。また、暮らしの保健室では経営の土台が薄弱な場合には頻回の運営に課題を有するとされている⁶⁰⁾。

開催地に関しては、本研究で対象とした報告内では、やや特異な傾向が見られた。すなわち、まちの保健室の開催地では兵庫県が4割を占めた。兵庫県には、兵庫県看護協会、兵庫県立大学、園田学園女子大学、神戸市看護大学といった同保健室に関与する組織が多く存在する。これらの団体から多数の報告がなされていることが開催地に占める割合が大きかった一因となっている可能性があった。また、阪神淡路大震災時に、仮設住宅や復興住宅を訪問し、健康チェックや看護的な支援を行う健康アドバイザー事業を行っており²⁾、後の兵庫方式「まちの保健室」が浸透する基盤のある地域特性も一因であると推測された。2015年に開設された鳥取看護大学は、開学時から社会貢献活動としてまちの保健室を位置づけており³⁵⁾、最近、報告を続けている。

一方、暮らしの保健室では東京からなされた報告が多かった。東京は、暮らしの保健室が開設された地域であり、その取り組みが全国に徐々に拡大している。東京からの報告が多い理由になっていると思われる。

表2に示されたキーワードから見た両保健室の活動と役割の比較は、両保健室の異なる特徴を示しつつも、共通した活動を明確化したことで興味深い資料と言える。この結果は、両保健室の成り立ちと主眼に起因していると考えられた。すなわち、まちの保健室の活動では、看護師の職能を生かした住民への健康相談、健康診断を通じた生活習慣の改善と健康づくりの啓発(教育)が挙げられた²⁾。これらがまちの保健室のキーワードにおいて、「健康」、「生活習慣」、「住民」の頻出に反映されたと思われる。暮らしの保健室の活動では、在宅療養の多職種による支援を身近に行うことに重点が置かれる傾向があった³⁾。例えば、近隣での居場所づくりを言明した報告があった⁵⁷⁾。今回の結果に見られた暮らしの保健室のキーワード(「職種」、「療養」、「近所」)は、暮らしの保健室の中心的な活動に係る部分を表しており、妥当な印象であった。

いずれの保健室も、医療機関とは異なる場所で地域や家族を明確に意識して、医療、介護、健康について予防を含めた相談や情報の提供をすることが共通のキーワードとして挙げられた。両保健室は、医療相談だけではなく日常生活に関する相談も行い、種々の事案に対応していた⁵³⁾。ほかには、ボランティアに運営されている様子^{4), 60)}や、医

療、介護の枠にとらわれることなく生活面に渡る看護師の職能の幅広さもキーワードの多様性から窺えた。両保健室は、名称は異なるが公益性を保持し、地域を基盤とするケアの（特に互助的な）一翼として重要な機能を果たしていることが明らかとなった。

地域での生活においては、複雑で多様な相談事案が発生するのは常である。超高齢社会になって、その支え手の負担増や不足も指摘される中で、あらゆる資源がいわば総力戦で、地域社会を支え合う体制が求められている。地域での相談先の充実は必須である。近年では、暮らしの保健室にヒントを得て始められた「みんなの保健室」^{62), 63)}という活動も現出しており、これも類似の機能を有していると思われる。保健室の名称は異なっても、これらの事業者、運営者が協働した活動はますます期待されるであろう。

本調査では、研究報告がなされている活動に関して検討を行ったことから、その内容は検索される範囲内の傾向である点に留意すべきである。検索語の選択においては、類似した内容で名称が異なる活動も見受けられ^{62), 63)}、すべての類似の保健室活動を抽出する検索語の選択基準を設けることは難しく、本調査結果は、検索語に用いた二つの名称で行われている活動に限定した一面を表していることにも留意を要する。

ともあれ、まちの保健室と暮らしの保健室は、地域を舞台として、異なる面と共通した活動の特徴とを示しながら進展していることが文献的検討で判明した。地域を基盤とするケアに欠かせない存在として、今後のますますの発展が期待される。

利益相反

全著者共になし。

文献

- 1) 厚生労働省. 在宅医療・介護連携推進の方向性 2013. https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureiha/chiiki-houkatsu/dl/link4-1.pdf [Accessed September 26, 2019].
- 2) 小田美紀子, 東山恵子, 神崎初美 他. 兵庫方式「まちの保健室」について兵庫県看護協会の取り組みより. *看護* 2012; **64**: 70-74.
- 3) 秋山正子. Globalな視点からの在宅ケアの在り方暮らしの保健室から見えてきたこと. *肺癌* 2014; **54**: 308.
- 4) 石浜みち子, 江幡恵子. 地域とのふれあいを求めた「まちの保健室」活動. *看護展望* 2003; **28**: 1308-1310.
- 5) 川名ヤヨ子. 女性の健康づくり支援の“まちの保健室”. *コミュニティケア* 2005; **7**: 23-27.
- 6) 中村悦子. 地域における看護提供システムモデル事業「まちの保健室」その構想と実践をとおした一考察. *新潟青陵大学紀要* 2004; **4**: 109-121.
- 7) 中林美奈子. 「まちの保健室」から広がる精神障害者が安心して暮らせる地域づくり 富山県看護協会保健師職能委員会の取り組み. *コミュニティケア* 2004; **6**: 26-29.
- 8) 井上ひとみ, 油木京子, 北村武子 他. 地域に開かれた施設へ子どもの虐待予防を視野に入れた老人保健施設での“まちの保健室”. *コミュニティケア* 2005; **7**: 14-16.
- 9) 泉宗美恵. 住民の主体的な活動を生み出したCM方式の“まちの保健室”. *コミュニティケア* 2005; **7**: 32-35.
- 10) 鈴木みずえ, 金森雅夫, 内田敦子 他. 在宅高齢者の転倒に対する自己効力感の測定. *老年精神医学雑誌* 2015; **16**: 1175-1183.
- 11) 田中明子. 地域のニーズと行政サービスをつなぐ“のりしろ”がまちの保健室. *訪問看護と介護* 2017; **22**: 304-309.
- 12) 山崎美穂. 名張市の取り組み まちの保健室を拠点としたワンストップ相談. *保健師ジャーナル* 2018; **74**: 838-842.
- 13) 蛭田由美, 河野益美, 石谷嘉章, 他. 地域と響きあう健康作り運動をめざして「あいのまちの保健室」開設1年目の活動報告. *藍野学院紀要* 2005; **18**: 123-130.
- 14) 戸田まどか, 中村ミドリ, 布施榮子, 他. 地域と響きあう健康作り運動をめざして(第2報)「あいのまちの保健室」活動の参加を通じた看護職員の職務能力促進に関する調査報告. *藍野学院紀要* 2006; **19**: 67-77.
- 15) 吉田明子, 鶴山治, 東ますみ, 他. 「まちの保健室」における骨密度測定実施の試み. *兵庫県立看護大学紀要* 2004; **11**: 45-55.
- 16) 西垣悦代. 兵庫方式“まちの保健室”2010年までに500ヶ所を目指した取り組み. *コミュニティケア* 2005; **7**: 20-22.
- 17) 大島理恵子, 堀田佐知子, 近田敬子 他. 「まちの保健室」における睡眠相談の試み. *兵庫県立大学看護学部紀要* 2006; **13**: 51-61.
- 18) 近澤範子, 玉木敦子, 川田美和 他. 看護師による『こころの健康相談』の来談者のニーズおよび効果の検討. *兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要* 2007; **14**: 107-118.
- 19) 坂下玲子, 大塚久美子. 高齢者の口腔ケア支援に関する相談技術の抽出 歯科衛生士が用いている相談技術. *兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要* 2008; **15**: 93-105.
- 20) 近澤範子, 玉木敦子, 川田美和 他. 看護師による『こころの健康相談』実践モデルの検討. *兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要* 2008; **15**: 119-133.
- 21) 神崎初美, 神原咲子. 兵庫県全域「まちの保健室」を利用している地域住民の健康状態と利用ニーズ. *兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要* 2009; **16**: 39-49.
- 22) 神原咲子, 神崎初美, 安達和美, 他. 「まちの保健室」ボランティア看護師のスキルアップ研修の評価と今後のニーズの検討. *兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要* 2009; **16**: 111-119.

- 23) 神崎初美, 神原咲子, 余田明美 他. 就労中年男性ヘテラーメイドで実施する運動支援に関する介入研究とその有効性の検討 「まちの保健室」で行う支援プログラム確立のためのパイロットスタディ. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 2010; **17**: 1-14.
- 24) 神崎初美, 東山恵子, 小田美紀子 他. 卒後院内教育研修プログラムに「まちの保健室」講座を導入した実践とその評価. 看護 2012; **64**: 75-79.
- 25) 池田清子, 安藤悦子, 岩本里織, 他. 神戸市看護大学“まちの保健室”の活動評価 利用者のアンケート調査より. 神戸市看護大学紀要 2012; **16**: 11-20.
- 26) 三浦藍, 安藤幸子, 中島友美 他. 神戸市看護大学“まちの保健室”『こころと身体の看護相談』の活動実績とその評価. 神戸市看護大学紀要 2012; **16**: 69-76.
- 27) 呉小玉, 大野かおり, 鶴山治 他. 兵庫県健康増進プログラムの信頼性と妥当性に関する研究 園田キャンパス「まちの保健室」で実施した健康増進プログラムを通して. 園田学園女子大学論文集 2008; **42**: 113-128.
- 28) 呉小玉, 大野かおり, 鶴山治 他. 園田キャンパス「まちの保健室」の参加者の身体状況と健康意識の実態 兵庫県健康増進プログラムの実施を通して. 園田学園女子大学論文集 2010; **44**: 121-132.
- 29) 松岡千代, 安達和美. 地域住民の認知症に対する意識と相談ニーズに関する調査 「まちの保健室」の相談場所としての利用可能性. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 2009; **16**: 69-83.
- 30) 新井香奈子, 神崎初美, 余田明美. 「まちの保健室」利用者への運動習慣支援に関する相談技術の抽出. 日本看護学会論文集: 地域看護 2012; **42**: 11-14.
- 31) 松井学洋, 小野ツルコ, 菅野夏子 他. まちの保健室に入室した高齢者の日常生活習慣と身体組成の特徴と関連性. 日本地域看護学会誌 2012; **15**: 126-132.
- 32) 片岡千明. 動脈硬化症の予防を目的としたフットケアを用いた看護相談の可能性の検討 「まちの保健室」における看護師による生活習慣病と足の相談. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 2015; **22**: 69-80.
- 33) 呉小玉, 黒瀧安紀子, 中田涼子 他. 「国際まちの保健室」に参加する在日外国人の健康意識, 生活習慣と健康状態の関連性. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 2016; **23**: 59-77.
- 34) 伊藤順子, 菊原美緒, 岩澤磨紀 他. 「まちの保健室」参加住民の健康意識 拠点型における健康意識調査と全国調査の比較を通して. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 2016; **73**: 45-51.
- 35) 藤井麻帆, 田中響, 美船智代 他. 「まちの保健室」の連携・協働の構築 認知・定着に向けてのこれまでの経緯. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 2016; **73**: 59-71.
- 36) 稲田千明, 荒川満枝. 「出前・イベント型まちの保健室」に参加する住民の意識と健康行動 住民の意識や健康行動を活用したまちの保健室とするために. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 2017; **75**: 29-34.
- 37) 藤井麻帆, 田中響, 美船智代 他. 「まちの保健室」の活動地域拡大に向けての方策 コミュニティ特性に応じた連携・協働. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 2017; **75**: 35-43.
- 38) 中川康江, 田中響, 土居裕美子 他. 地域の健康づくりリーダー養成による大学・地域連携強化の取り組み. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要2018; **76**: 57-60.
- 39) 永見純子, 伊藤順子, 土居裕美子. 「高齢者」と「まちの保健室」に関する文献レビュー 超高齢社会における「まちの保健室」の役割・効果. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 2018; **77**: 1-12.
- 40) 藤井麻帆, 田中響, 美船智代, 永見純子, 近田敬子. CCRCにおける大学の役割の構築「まちの保健室」を用いた連携・協働のあり方. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 2018; **77**: 49-55.
- 41) 稲田千明, 松本弘美, 荒川満枝. 2016年度の「出前・イベント型まちの保健室」に参加された住民の健康状態と意識に関する調査. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 2019; **78**: 9-14.
- 42) 住田佳子. 訪問看護師も関わる温泉施設の“まちの保健室”. コミュニティケア 2005; **7**: 17-19.
- 43) 鈴木真貴子, 川合政恵, 木下愛子 他. 「ほかほか『まちの保健室』」5年間の利用実態. 看護 2010; **62**: 86-90.
- 44) 磨家敦子, 古山悦子. 駅前デパートを拠点にした“まちの保健室”で看護職をPR. コミュニティケア 2005; **7**: 28-31.
- 45) 上田雪子. 商店街を拠点とした「まちの保健室」における保健活動の実際. 訪問看護と介護 2008; **13**: 398-399.
- 46) 杉原治美, 多田敏子. 実践レポート ITを活用したバーチャル相談室「まちの保健室」. 保健師ジャーナル 2008; **64**: 24-28.
- 47) 杉原治美, 多田敏子, 大岡裕子 他. バーチャル看護相談室開設から4年間の利用状況分析. 日本医療マネジメント学会雑誌 2009; **10**: 404-409.
- 48) 東ますみ, 川口孝泰, 南裕子. 遠隔看護システムにおけるバイタル情報の有用性「まちの保健室」での活用に向けて. 兵庫県立看護大学紀要 2002; **9**: 103-111.
- 49) 山崎摩耶. 日本看護協会が進める“まちの保健室”. コミュニティケア 2005; **7**: 12-13.
- 50) 南裕子. “まちの保健室”活動から見た連携上の問題と将来. リハビリテーション連携科学 2003; **4**: 1-4.
- 51) 中村順子. 全国に広がる「まるごとケアの家」とそのコンセプト(報告3)大学の1室に「暮らしの保健室」の機能を持たせた相談の場を開設 おらほの暮らしの保健室(秋田県秋田市). コミュニティケア 2017; **19**: 50-59.
- 52) 村上紀美子. 地域の中での“暮らしの保健室”の意味 看護や保健の無料アンテナショップ. コミュニティケ

- ア 2013; **15**: 21-23.
- 53) 秋山正子. 「暮らしの保健室」で開花した訪問看護の相談機能. *訪問看護と介護* 2014; **19**: 47-52.
- 54) 秋山正子. 在宅高齢者の熱中症 予防の観点から地域ネットワーク構築まで. *Geriatric Medicine* 2014; **52**: 527-532.
- 55) 杉本みぎわ. がん治療施設が点在する新宿区に「暮らしの保健室」が存在する意義 病院と在宅の狭間で取り残される患者・家族を支える. *看護管理* 2015; **25**: 165-167.
- 56) 川口美喜子. 「暮らしの保健室」での栄養相談から見えてくること. *臨床栄養* 2015; **126**: 238-239.
- 57) 秋山正子. 訪問看護の実践からみた地域包括ケアにおける看取り 予防から看取りまで. 地域の中で最期まで生きることを支える. *医療と社会* 2015; **25**: 71-85.
- 58) 秋山正子. 高齢がん患者における在宅ケア. *Geriatric Medicine* 2016; **54**: 1279-1283.
- 59) 野崎加世子. わたしの町の、ほけん室 地域の中で安心して相談できる居場所づくりをめざして. *コミュニティケア* 2013; **15**: 24-27.
- 60) 杉本みぎわ. 実践報告 暮らしの保健室in若松こみねこハウス 空き家を「地域の資源」に変える. *訪問看護と介護* 2017; **22**: 270-275.
- 61) 村上紀美子. 地域の中での「暮らしの保健室」の意味 看護や保健の無料アンテナショップ. *コミュニティケア* 2013; **15**: 21-23.
- 62) 紅谷浩之. 全国に広がる「まるごとケアの家」とそのコンセプト (報告 8) 家族や地域の人の役割を見つけ、つないでいく「まるごとケアの家」みんなの保健室 (福井県福井市). *コミュニティケア* 2017; **19**: 93-99.
- 63) 中村悦子. 地域包括ケアシステムを理解するために「みんなの保健室わじま」の役割その現状と課題. *Nutrition Care* 2017; **10**: 1108-1110.

付表 対象とした論文の一覧

タイトル	著者 発行年 雑誌名	研究のデザイン と主目的	対象	内容 (主な結果)
2016年度の「出前・イベント型まちの保健室」に参加された住民の健康状態と意識に関する調査 ⁴¹⁾	稲田千明 他 2019 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要	質問紙調査 健康状態, 健康意識, 健康行動を調査	まちの保健室参加者 725名 男: 263名, 女: 458名	まちの保健室で自身の健康を振り返るきっかけとなり健康意識の向上につながる。
「高齢者」と「まちの保健室」に関する文献レビュー 超高齢社会における「まちの保健室」の役割・効果 ³⁹⁾	永見純子 他 2018 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要	文献レビュー まちの保健室の役割と効果に着目	「高齢者」と「まちの保健室」の検索語による 22件	交流だけでなく、ボランティアとして活躍できる場であり、「まちの保健室」の役割は多様である。
<研究ノート> 地域の健康づくりリーダー養成による大学・地域連携強化の取り組み ³⁸⁾	中川康江 他 2018 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要	質問紙調査 リーダー養成講座の受講効果の検証	健康づくりリーダーの養成講座修了生 55名	「まちの保健室」を継続していくためには、地域住民の主體的な取り組みが必要である。
「まちの保健室」の活動地域拡大に向けての方策 コミュニティ特性に応じた連携・協働 ³⁷⁾	藤井麻帆 他 2017 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要	質的記述的研究 「まちの保健室」開催実績の比較	鳥取市いなば西郷地区と琴浦町下郷地区の2地域での活動事例	「まちの保健室」はコミュニティ特性に応じて柔軟に変化させていく必要性が見えてきた。
「出前・イベント型まちの保健室」に参加する住民の意識と健康行動 住民の意識や健康行動を活用したまちの保健室とするために ³⁶⁾	稲田千明 他 2017 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要	質問紙調査 健康チェック項目と健康意識	「出前・イベント型まちの保健室」の参加者 528名 (有効回答 493)	「出前・イベント型まちの保健室」の性質上ゆっくりと話をすることは難しいが、健康について振り返るきっかけとなり得る。
「まちの保健室」参加住民の健康意識 拠点型における健康意識調査と全国調査の比較を通して ³⁴⁾	伊藤順子 他 2016 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要	質問紙調査 健康意識に関する調査	拠点型まちの保健室の利用者	「まちの保健室」はリピーターが多く、より健康意識を高め、健康行動の変化につながる働きかけが必要であると考えられる。

「国際まちの保健室」に参加する在日外国人の健康意識, 生活習慣と健康状態の関連性 ³³⁾	呉小玉 他 2016 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	質問紙調査 健康意識, 生活習慣と健康状態の関連性を検討	「国際まちの保健室」に来室した18歳以上の在日外国人79名	在日外国人の健康意識, 生活習慣の変容を促すための看護介入する上での示唆が得られた。
動脈硬化症の予防を目的としたフットケアを用いた看護相談の可能性の検討 「まちの保健室」における看護師による生活習慣病と足の相談 ³²⁾	片岡千明 2015 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	質的記述的研究 動脈硬化に関する身体状況と足の状態, 看護相談に対する反応を検討	専門まちの保健室「生活習慣病と足の看護相談」の参加者32名	フットケアを用いた動脈硬化症予防のための看護相談の可能性が示唆された。
まちの保健室に来室した高齢者の日常生活習慣と身体組成の特徴と関連性 ³¹⁾	松井学洋 他 2012 日本地域看護学会誌	質問紙調査 身体組成と食事, 運動との関連	2009年6月～2010年3月にまちの保健室に来室し, 協力が得られた50人	客観的な測定結果の提供により根拠に基づく自身の生活習慣の振り返りにつながる。
神戸市看護大学「まちの保健室」『こころと身体の看護相談』の活動実績とその評価 ²⁶⁾	三浦藍 他 2012 神戸市看護大学紀要	調査票調査, 質問紙調査 看護相談の活動実績と利用者の評価の関係	調査票: 看護相談の利用者の内, 同意が得られた20名 質問紙: 看護相談の利用者の内, 同意が得られた16名	「看護相談」は, 何らかの問題を抱えた時の相談先として医療機関と家族や友人の中間に位置する場として機能している。
神戸市看護大学「まちの保健室」の活動評価 利用者のアンケート調査より ²⁵⁾	池田清子 他 2012 神戸市看護大学紀要	質問紙調査 「まちの保健室」の利用者属性, 満足度, 参加動機などによる活動評価	「まちの保健室」利用者の内, 協力の得られた232人	半数以上の利用者がかかりつけ医を持ちながらも, 健康づくりのきっかけとして「まちの保健室」を利用している。
「まちの保健室」利用者への運動習慣支援に関する相談技術の抽出 ³⁰⁾	新井香奈子 他 2012 日本看護学会論文集: 地域看護	質問紙調査, 質的記述的研究 相談, 面談に関する教育プログラム開発のための資料収集	平成21年4月～平成22年3月に研究参加に同意した地域住民	ボランティア看護師が継続して関わり続けるという姿勢を示す事が, 相談者の信頼・安心につながっていた。
【卒後院内教育にも活用できる「まちの保健室」兵庫県看護協会の取り組み】卒後院内教育研修プログラムに「まちの保健室」講座を導入した実践とその評価 ²⁴⁾	神崎初美 他 2012 看護	質問紙調査 卒後院内教育プログラムに「まちの保健室」講義と実習を取り入れた効果の検証	2009年10月～2010年2月 研修プログラム参加看護師111名	看護協会による「まちの保健室」運営上の工夫, 行政や保健師との連携, ナース個人の学習努力を続けることにより強化する必要がある。
就労中年男性へテーラードで実施する運動支援に関する介入研究とその有効性の検討 「まちの保健室」で行う支援プログラム確立のためのパイロットスタディ ²³⁾	神崎初美 他 2010 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	前後比較介入試験 「まちの保健室」で行う中年男性への運動支援プログラムの効果検証	同意の得られた9名	参加者に運動習慣を確立することが確認され, 内臓脂肪断面積・体脂肪量・体重が改善した。

園田キャンパス「まちの保健室」の参加者の身体状況と健康意識の実態 兵庫県健康増進プログラムの実施を通して ²⁸⁾	呉小玉 他 2010 園田学園女子大学論文集	質問紙と検査データの分析 「まちの保健室」で行った健康増進プログラム参加者の健康状態と健康意識の変容調査	健康増進プログラム参加者の内同意の得られた146名	個々の健康状態・生活習慣をアセスメントし、個人の健康意識や身体測定の結果に合った看護の介入が効果的である。
兵庫県健康増進プログラムの信頼性と妥当性に関する研究 園田キャンパス「まちの保健室」で実施した健康増進プログラムを通して ²⁷⁾	呉小玉 他 2008 園田学園女子大学論文集	質問紙調査 健康増進プログラムの妥当性検証	「まちの保健室」来室者のうち同意の得られた146名	兵庫県健康増進プログラムの信頼性と妥当性の高さが確認された。
バーチャル看護相談室開設から4年間の利用状況分析 ⁴⁷⁾	杉原治美 他 2009 日本医療マネジメント学会雑誌	アクセスログ解析 情報提供サービスとしての役割検証	2005年10月～2008年3月までのバーチャル看護相談室「まちの保健室」のホームページ来訪者	医療関係者および一般住民が、バーチャル相談室の利用により、時間や場所の制限なしに情報を入手していることが確認された。
「まちの保健室」ボランティア看護師のスキルアップ研修の評価と今後のニーズの検討 ²²⁾	神原咲子 他 2009 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	質問紙調査 ボランティア看護師のスキルアップ研修会の効果検証	2007年10月17日開催の研修会参加看護師	看護師がボランティアとして働くための職場の理解が不可欠である。
地域住民の認知症に対する意識と相談ニーズに関する調査 「まちの保健室」の相談場所としての利用可能性 ²⁹⁾	松岡千代 他 2009 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	質問紙調査 地域住民の認知症に対する意識、相談ニーズの把握	地域住民：配布数3624（有効回答858）	認知症の相談先として「まちの保健室」のニーズは高い一方、相談場所、日時、方法は多様である。
兵庫県全域「まちの保健室」を利用している地域住民の健康状態と利用ニーズ ²¹⁾	神崎初美 他 2008 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	質問紙調査 「まちの保健室」利用者の健康状態と利用ニーズの把握	調査用紙に有効回答をした405（男96、女303）人	健康指導は生活習慣の見直しやメタボリックシンドローム予防、特に食事や運動療法の指導に重点化する必要性がある。
看護師による『こころの健康相談』実践モデルの検討 ²⁰⁾	近澤範子 他 2008 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	質的機能的分析 「まちの保健室」の独自の役割の探究	平成17、18年度の相談記録65件	大学を拠点とした精神看護学担当教員による『心の健康相談』の概念モデル（試案）を提案した。
高齢者の口腔ケア支援に関する相談技術の抽出 歯科衛生士が用いている相談技術 ¹⁹⁾	坂下玲子 他 2008 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	質的記述的分析 高齢者の口腔ケアに関する相談技術の検討	研究参加の同意の得られた歯科衛生士27名	歯科衛生士の相談技術は看護ケアの技術と重なる点が見られ、看護職も参考にできると考えられた。
看護師による『こころの健康相談』の来談者のニーズおよび効果の検討 ¹⁸⁾	近澤範子 他 2007 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	質的記述的研究 相談の評価検証	3回以上継続して「こころの健康相談」を受けており、同意が得られた来談者	相談による効果は悩みを持ちながらも安定した生活を営めるようになった、などの前向きな変化がみられた。

「まちの保健室」における睡眠相談の試み ¹⁷⁾	大島理恵子 他 2006 兵庫県立大学看護学部紀要	質問紙調査 「まちの保健室」における睡眠相談の活動方法の検討	まちの保健室来訪者 102 名	来訪者の睡眠に対する考え方や生活行動に変化が現れ、睡眠が改善する効果があることが示唆された。
在宅高齢者の転倒に対する自己効力感の測定 ¹⁰⁾	鈴木みずえ 他 2005 老年精神医学雑誌	質的記述的研究 転倒に関する自己効力感の検証	まちの保健室の65歳以上の参加者の内、承諾の得られた71名（男：34，女：37）	日本語版転倒関連自己効力感尺度は信頼性・妥当性があり、高齢者の転倒予防教育において有効であると示唆された。
地域と響きあう健康作り運動をめざして「あいのまちの保健室」開設1年目の活動報告 ¹³⁾	蛭田由美 他 2005 藍野学院紀要	質的記述的研究 保健室実施の効果検討	「あいのまちの保健室」参加者 569 名	参加者の殆どは女性であり、催し物、特に骨密度測定の参加率、参加満足度が高かった。
「まちの保健室」における骨密度測定実施の試み ¹⁵⁾	吉田明子 他 2004 兵庫県立看護大学紀要	質問紙調査 健康管理の側面から「まちの保健室」のあり方を検討	まちの保健室来訪者 240 名	「健康について相談する場」と「自分の健康について振り返る場」として機能した。
遠隔看護システムにおけるバイタル情報の有用性 「まちの保健室」での活用に向けて ⁴⁸⁾	東ますみ 他 2002 兵庫県立看護大学紀要	バイタル情報解析 遠隔看護システムのためのバイタル情報の検証	研究参加に同意の得られた3名	指尖容積脈波のカオス解析によって、生理状態、心理状態を含めた客観的な健康状態の指標となる可能性が示唆された。

Characteristics of two kinds of community-based healthcare rooms : A literature review

Tatsuya SUZUKI, Hiroyuki TERAURA, Toshie MANABE, Kazuhiko KOTANI

Division of Community and Family Medicine, Center for Community Medicine, Jichi Medical University

Abstract

Two kinds of community-based healthcare rooms indicate new movements in community-based care. The *Local Health Room* (Japanese : *Machi-no-Hoken Shitsu*) was started in 2000 by the Japan Nursing Association. Its activities are expanded by volunteer nurses involved with several universities and organizations. The *Daily Life Healthcare Room* (*Kurashi-no-Hoken Shitsu*) was established in 2011 and is not always associated with hospitals or clinics. This literature review looked at both the differences and similarities between the two rooms. *Daily Life Healthcare Rooms* were found more frequently than *Local Health Rooms*. Keywords associated with the roles of the rooms, as seen in the literature, are 'health', 'partnership', and 'community residents' in the *Local Health Rooms*, and 'recuperation/medical care', 'neighborhood', 'doctor', and 'care manager' in the *Daily Life Healthcare Rooms*. In both types of rooms, frequent keywords were 'consultation', 'prevention', 'community', 'family', 'volunteer', and 'nurse'. The characteristics of the consultations and the keywords are thought to result from their histories and scopes. The two rooms appear to share the key function of community-based care and have been important players in community health.

(Keywords : local health room, daily life healthcare room, health consultation, community-based care)